

番号	学校名
30-3	千葉県立館山総合高等学校

## 令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

<b>1 研究開発課題名</b>	教科「家庭」の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～						
<b>2 研究の概要</b>	<p>次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進めるために、地域での実践の場として「まちカフェ」運営に取り組む。運営に当たっては、「減災・被災地支援活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の四つのフィールドを設定し、学校家庭クラブ活動などと連携を図りながら、コミュニティの再生・活性化及び生活の質の向上につながる教育プログラムを開発する。</p> <p>また、大学等の協力を得て、協働型・双方向型学習に焦点を当てた指導方法や評価方法について研究する。専門学科での学びを地域や社会の課題解決に生かし、様々な人々と協働し、主体的かつ創造的に解決する力や、生涯にわたり学び続ける力を持った地域共創人材を育成する教育プログラムを開発する。</p>						
<b>3 令和2年度実施規模</b>	家政科を中心とし研究実践を行い、「総合的な探究の時間」や一部の活動においては学科を越えて実施した。						
<b>4 研究内容</b>	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1"> <tr> <td>第1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成</li> <li>地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施</li> <li>「まちカフェ」の取組み</li> <li>評価方法の開発</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>第2年次</td> <td> <p>1年目の事業を継続し、それに加えて研究開発を深化させ、以下の内容を重点的に開発していく。更に、生徒を積極的に地域での活動に参加するように促し、講座を開いたり発表したりする機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動を学校設定教科・科目とし、出張カフェ等の参加をはじめ各種社会貢献活動を学習として位置付ける。</li> <li>持続可能なまちカフェの構想</li> <li>地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントの開催</li> <li>ICT活用，WEB情報発信</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>第3年次</td> <td> <p>1年目・2年目の事業を継続し、それに加えて生徒が自主的に地域課題を見だし、解決の糸口を見つけられるセンスを育む。急激な社会の変化に柔軟に対応し、様々な人々と共に支え合う生活産業を担う専門的職業人の育成を目指し、研究成果を県内外の家政科高校へ広める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店街の空き店舗等を地域の関係者と共に活用したまちカフェの開設</li> <li>運営して見いだした課題を解決・改善する実践を行い、まちカフェ運営を充</li> </ul> </td> </tr> </table>	第1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成</li> <li>地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施</li> <li>「まちカフェ」の取組み</li> <li>評価方法の開発</li> </ul>	第2年次	<p>1年目の事業を継続し、それに加えて研究開発を深化させ、以下の内容を重点的に開発していく。更に、生徒を積極的に地域での活動に参加するように促し、講座を開いたり発表したりする機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動を学校設定教科・科目とし、出張カフェ等の参加をはじめ各種社会貢献活動を学習として位置付ける。</li> <li>持続可能なまちカフェの構想</li> <li>地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントの開催</li> <li>ICT活用，WEB情報発信</li> </ul>	第3年次	<p>1年目・2年目の事業を継続し、それに加えて生徒が自主的に地域課題を見だし、解決の糸口を見つけられるセンスを育む。急激な社会の変化に柔軟に対応し、様々な人々と共に支え合う生活産業を担う専門的職業人の育成を目指し、研究成果を県内外の家政科高校へ広める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店街の空き店舗等を地域の関係者と共に活用したまちカフェの開設</li> <li>運営して見いだした課題を解決・改善する実践を行い、まちカフェ運営を充</li> </ul>
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成</li> <li>地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施</li> <li>「まちカフェ」の取組み</li> <li>評価方法の開発</li> </ul>						
第2年次	<p>1年目の事業を継続し、それに加えて研究開発を深化させ、以下の内容を重点的に開発していく。更に、生徒を積極的に地域での活動に参加するように促し、講座を開いたり発表したりする機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動を学校設定教科・科目とし、出張カフェ等の参加をはじめ各種社会貢献活動を学習として位置付ける。</li> <li>持続可能なまちカフェの構想</li> <li>地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントの開催</li> <li>ICT活用，WEB情報発信</li> </ul>						
第3年次	<p>1年目・2年目の事業を継続し、それに加えて生徒が自主的に地域課題を見だし、解決の糸口を見つけられるセンスを育む。急激な社会の変化に柔軟に対応し、様々な人々と共に支え合う生活産業を担う専門的職業人の育成を目指し、研究成果を県内外の家政科高校へ広める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店街の空き店舗等を地域の関係者と共に活用したまちカフェの開設</li> <li>運営して見いだした課題を解決・改善する実践を行い、まちカフェ運営を充</li> </ul>						

	実させる。 ・ 同様の課題を抱えている他地域の高校との交流
--	----------------------------------

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし

○令和2年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

家政科の教育課程表を別紙添付する。（別紙1）

○具体的な研究事項・活動内容

（1）まちカフェの運営

「まちカフェ」とは、コミュニティの再生に向け、地域の人々が集い、交流し、地域の魅力を再確認・発信するプロジェクトであり、主に「減災・被災地支援活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の4つのフィールドで活動する。

「まちカフェ」は、家庭科の学習過程（課題発見・課題設定⇒解決方法の検討・計画⇒実践活動⇒評価・改善⇒地域での実践）における地域での実践の場であり、家庭の学びを生かし生徒が運営する。

（ア） フィールド別活動 課題研究で調査研究改善を実施

\*新型コロナウイルス感染症対策により計画を大幅に変更して実施

① 減災・被災地支援活動	コロナ禍	① 減災・被災地支援活動
② 交流	により変更	② 地域活性
③ 食のまちPR活動	→	③ 食のまちPR活動
④ 地域の魅力発信		④ 布地利活用

（イ） 地域で開催されるイベントに参加し学校主体のまちカフェを実施

① まちカフェ

講座・コーナー	内 容
減災活動	避難想定ゲーム(D I G)をやってみよう ふくしま学宿・避難所運営についての発表
プレゼン発表	観光案内所リニューアルプロジェクトについて 愛ご井(うまいもん甲子園出場用)の紹介 館山総合高校家政科S P Hの活動紹介
商品開発品の販売	NEW房総の恵みぎゅっとピタの販売 ピーナツパイ 饅頭の販売
パウンドケーキ	オリジナル館総パウンドケーキの販売
布地利活用	リメイクエコバッグの展示 手作りマスク・裂き織の紹介・展示
海洋科	缶詰販売

② t u . n e . カフェ

市街地で空き家をリノベーションした飲食店を運営している地元協力者の計らいで、 t u . n e . カフェという定期的で開催できる場所を提供していただき、11月に3回実施した。駅前の観光案内所と共に今後定期的に小規模開催できる場所としていく予定。

実施日	内 容
11月6日	パウンドケーキ販売 海洋科缶詰販売
11月20日	エコバッグ販売・手作りマスク展示 Newピタパン販売・海洋科缶詰販売
11月27日	エコバッグ・パウンドケーキセット販売 愛ご井販売

### ③ 里海博2020

NPOたてやま海辺の鑑定団主催の本イベントに参加

講座・コーナー	内 容
パウンドケーキ	オリジナル館総パウンドケーキの販売
愛ご井 海洋環境	愛ご井(アイゴ入りのそばろ井)の販売 海のトークショー, パネリスト出演
地域活性	観光案内所の看板に貝殻を貼るワークショップ

## (2) 授業改善

### (ア) 協働型・双方向型学習

学年・学科の枠を超え、縦断および横断型の学び合いを導入。縦断型の学び合いにより3学年での到達点を1学年からイメージさせ、横断型の学び合いにより他学科他専門分野への理解を深める。また縦断型・横断型の学び合いにより、生徒の主体的に学ぶ意欲を喚起するとともに、より深い理解と技術の熟達、発想の広がりを目指す。

共通教科においてもグループ学習やペア学習等を積極的に導入し、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図ることをねらいとした。

### ○実践内容

#### ① 1年「総合的な探究の時間」

学年全員で受講する授業を多く導入し展開した。学科を越えた班を編成し、話し合い活動を積極的に取り入れ、多様な考えから新しい発想や融合したアイデアが生まれることを期待した。

#### ② 他学科との学科連携

互いの得意分野と専門性を知ることが、学びの刺激となり活動の幅と発想が広がった。

1. 海洋科食品コース【かつお加工品製造実習】⇒ 商品開発, レシピコンテストに応募

2. 海洋科栽培環境コース【アマモ再生活動SDGs レシピコンテストに応募】

⇒環境問題を創作劇に取り入れた

3. 工業科【ソーラーランタン作り】⇒ 被災地支援活動で配布

#### ③ 減災WEEK

すべての教科・科目において減災テーマの授業を実施する期間を設定し、教科横断授業を実施した。生徒はそれぞれの学習を関連付け知識を深める機会になり、教員は教員間の連携を取ることで、資質向上の機会となった。

例 防災川柳を考える(国語) 地震発生メカニズム(地学) 津波と波浪の違い(水産)

防災対策動画作成(商業) 房総半島の災害史(地歴) 災害時に役立つ英会話(英語)

#### ④ ポスターセッション・成果発表会

ポスターセッションでは、まちカフェ運営の研究のまとめとしてポスターを作成し、割り当てられたスペースにて近くにいる来場者にその内容を説明し質問に答える形式で実施。これによりプレゼンテーション力、状況判断力、コミュニケーション力等を育む。また、課題研究発表会・成果発表会においても同様に様々な資質の向上をめざし、自己肯定感を育む機会とした。

#### (イ) 自己評価力を高める学習

生徒自らが、自身の学習の成果を振りかえり、それを客観的に評価することで、自己評価力を育成することをねらいとした。

#### ○実践内容

##### ① 生徒自身で評価規準を作成

成果を発表するなど表現を伴う授業では、生徒自身で評価規準を作成させる。生徒自ら項目や達成度を考えることで、ポイントやゴールを意識しやすくなり、授業全体が能動的になると考える。

##### ② 学びの足跡

「学びの足跡」と称した単元ごとの振り返りシートを用いて、身に付いた資質能力を認識させ、生徒の自己評価力を高める取組みを家庭科の各科目及び「まちカフェ」運営後に実施する。特に、「まちカフェ」運営を振り返り評価・改善を行い、身についた資質能力を認識することにより、学ぶことと社会とのつながりを実感させる。

「学びの足跡」は他教科、他学科でも十分活用できると考える。3年次は他教科でも学習過程の指針として位置付け、あらゆる角度から自分をみつめ、自己評価力を高める教育プログラムを深化・発展させる。

#### (3) 知識・技術を高める講座・研修

講座や研修を受講することにより、生活産業および減災活動に関する学習等を充実させ、地域課題を見つめ家政科の学びを生かした解決策を考え、広い視野を持つ機会を作る。

(ア) 「ふくしま学宿」宿泊研修

(イ) 千葉敬愛短期大学講師による身体表現講座

(ウ) 産業教育フェア大分大会 S P H事業発表・オンライン交流会

(エ) 宮城県防災ジュニアリーダー育成研修・オンライン交流会

(オ) ものづくりマイスタージャケット制作実習

(カ) ものづくりマイスター和菓子講習会

(キ) 教員研修 島根県隠岐郡海士町視察

## 5 研究の成果と課題

### ○研究成果の普及方法

- 学校ホームページにS P H関連の授業内容を掲載
- 安房地域の日刊紙である房日新聞にS P H関連記事の掲載を依頼、地域住民に情報を提供
- 千葉県高等学校教育研究会家庭部会が毎年刊行する「家庭科教育」にS P Hの教育実践を掲載

### ○実践による効果とその評価

#### (1) まちカフェの運営

今年度はコロナ禍により交流を伴う講座やイベントが出来ず、実施方法を工夫すること自体が課題解決学習となった。また、生徒会・他学科と連携を深め運営することもできた。

講座を開催するための計画力、主体性、講座の宣伝や内容をわかりやすく伝える情報発信力、来場者とのやり取りの中で臨機応変に行動できる柔軟性、公の場での適切な行動ができる規律性、感情に左右されないストレスコントロール力を評価した。

結果は計画力 86.8%(81.0% カッコ内は昨年値 以下同様)、主体性 80.8%(73.6%)情報発信力 73.4%(72.4%)、柔軟性 77.3%(74.1%)、規律性 89.8%(80.6%)、ストレスコントロール力 76.6%(69.8%)であった。全体的には昨年度の数值より微増した。まちカフェ運営の回数は少なかったが2年時よりも主体的な立場で運営したことで自信がついたと判断する。

まちカフェやSPHの活動から今生かされていることを昨年度末に卒業した社会人にインタビューをしたところ、「ボランティア活動があれば率先して参加する」という回答が複数あった。このことから学校企画のボランティア活動により、社会に出て抵抗なく社会貢献活動、社会参加ができるのではないかと分析する。その他にも「社内での困りごとの改善を上司に提案した」「人前で話すことに抵抗がなくなった」など、課題解決力、他者との協働、コミュニケーション力等が生かされている。

## (2) 授業改善

### (ア) 協働型・双方向型学習

ポスターセッション・成果発表会ではプレゼンテーション力、状況判断力、コミュニケーション力を重点評価したところプレゼンテーション力 76.2%、状況判断力 60.3%、コミュニケーション力 74.7%となった。状況判断力がやや低かったことから、即座に質問を理解し的確な回答をする困難さを実感したと考える。一方で協働型・双方向型学習が有意義であることが、自由記述の文面から伺える。今後も他教科と連携を図り言語活動を取り入れ、的確な判断と言語表現力を育む取組みを実践していく。

1年の総合的な探究の時間では対話力と発表表現力についてアンケート評価をした。対話力は 72.7% (68.8% カッコ内は入学時 以下同様) 発表力は 70.3% (61.1%) と数值がいずれも上昇している。今後も改善を重ね、生徒それぞれの専門性や強みを探り多様性を認めて新たな価値を生む取組みをしていくとともに、複数の専門学科を置く学校や総合学科での教育課程の一例「館総モデル」を構築していきたい。

### (イ) 自己評価力を高める学習

評価規準の作成、学びの足跡ワークシート作りを通して、自らの資質を把握する分析力や課題発見力、課題に向けて解決策を模索する探究力、わかりやすくワークシートにまとめて伝える発信力について評価した。結果は分析力・課題発見力 67.9%(74.3% カッコ内は昨年値 以下同様)、探究力 69.5%(63.4%)発信力 75.0%(75.6%)となった。この学習を定期的実施することで、自己評価力を構成する資質が向上すると考察する。

## (3) 知識・技術を高める講座・研修

ふくしま学宿後のアンケートでは、学んだ内容を今後どのように生かしていきたいかに着目するため、課題発見力と主体性について評価した。また講師やフィールドパートナーとの交流を取る際の規律性とコミュニケーション力も評価した。

結果は課題発見力 70.1%、主体性 75.1%、規律性 80.7%、コミュニケーション力 70.8%だった。目的とする現地に赴き現地の人と交流し当時の様子を想像することは、非認知能力を刺激する良い機会である。研修後に言語化する機会を設けメタ認知することも重要である。今後も予算を確保しながらオンライン交流も視野に入れ、良質な講座や研修を企画したい。

## (1) まちカフェの運営

まちカフェは「探究学習の成果を発表する場」「課題を発見して探究学習への意欲を高める場」という定義や、「校外での学びが生徒の資質を伸長する」という認識が教員間で定着しつつある。また、地域での認知度も広がりつつある。このことから今後まちカフェを継続することが本校の特色になっていくと確信する。そのためにもまちカフェ運営をマニュアル化し、誰が担当しても負担なく展開できる形にしていく。更にこの有意義なプログラムを他学科でも展開していくために、課題研究の学習内容を精査するとともに、地域課題についてまちカフェで発表し、地域の方々の意見を取り入れながら解決の糸口を導き出す形式で学習計画を作成していくことが重要である。

また、世間の様々な制約から生徒の自由な発想が実現できないこともあり、工夫を凝らしたまちカフェ運営を実施した。今後民間企業や団体から合理的かつスピーディーにプロジェクトを実現する方法を学んだり、民間とタイアップしてまちカフェを展開する等、教員が地域の人たちから学ぶ機会を作っていきたい。

## (2) 授業改善

### (ア) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

1年生の総合的な探究の時間において、学科を越えた協働型・双方向型学習は有意義であった。今後2年時は専門性を深める学年と位置づけて学習し、3年生でそれぞれの強みを生かした学科連携、まちカフェを展開する予定である。1年時で培った探究学習のセンスを維持するために、2年時も数回学科連携を意識した学習活動を取り入れたい。

減災WEEKは教科横断、カリキュラムマネジメントの一例として本校教育活動の特色にもなり得る。次年度以降も改訂しながらより良い事業にしていくために、学校全体でどのように展開していくかを検討する必要がある。

3年間のSPHで実践し効果が発揮された様々な協働型・双方向型学習は今後も継続していく。そのためにシラバスや学習指導計画、学校行事等にこの学習形式を位置付け定着させたい。また、他教科や他学科でも協働型・双方向型学習を取り入れるため、教員の指導技術向上が課題である。指導方法の課題や工夫を文書にまとめ教員研修を行い、教員の共通理解を進めていく必要がある。

### (イ) 自己評価力を高める学習

生徒自身で評価規準を作成すること、学びの足跡、いずれもまず担当者が実践し、改善を繰り返し、生徒や教科科目の特性に合った方法にしていくことが必要である。

本研究の深化により、課題発見力は探究学習・プロジェクト型学習において極めて重要で一朝一夕には身に付かず、教員の技量に大きく左右されることがわかった。平素から教員間で探究活動を実践し技量を身につけ、生徒が自主的に地域課題を見いだす環境づくりをしていく必要性を痛感した。

これからの社会では非認知能力や社会情動スキルを生徒自身がメタ認知することが求められる。これを学習に位置付けた時に教員による評価は果たして必要なのか疑問であり、今後どのように位置づけるかが課題である。

## (3) 知識・技術を高める講座・研修

校外での研修は、適度な緊張感で現場に赴き、そこに行かなくては実感がわからない新鮮な話題に触れる機会になり、生徒にとって大変有意義である。その後の生徒の学習意欲が向上することが多いため、今後も継続したいが、費用の捻出が今後の課題である。

# 教育課程（家政科）

平成30年度入学生

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	単位数合計		備考	
						科目	教科		
普通（共通） 教科・科目	国語	国語総合	4	3	3		6	芸術の選択は、1年と3年は同じ科目とする。  「生活産業情報」で「社会と情報」2単位を代替する。 「課題研究」で「総合的な学習の時間」3単位を代替する。 専門科目の選択は、2年と3年は同じ科目とする。	
		国語表現	3			2	2		
	地理歴史	世界史A	2		2		2		4
		日本史A	2			2	2		
	公民	現代社会	2	2			2		4
		政治・経済	2			2	2		
	数学	数学Ⅰ	3	3			3		7
		数学Ⅱ	4		2	2	4		
	理科	科学と人間生活	2	2			2		4～6
		化学基礎	2			○2	0～2		
		生物基礎	2		2		2		
	保健体育	体育	7～8	3	2	2	7		9
		保健	2	1	1		2		
	芸術	音楽Ⅰ	2	◇2			0～2		4
		音楽Ⅱ	2			◇2	0～2		
		美術Ⅰ	2	◇2			0～2		
		美術Ⅱ	2			◇2	0～2		
		書道Ⅰ	2	◇2			0～2		
		書道Ⅱ	2			◇2	0～2		
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3		7～9
コミュニケーション英語Ⅱ		4		2	2	4			
英語会話		2			○2	0～2			
家庭	家庭基礎	2	2			2	2		
情報	社会と情報	2							
専門教科・科目	家庭	生活産業基礎	2		2		2	35～37	
		課題研究	2～4			3	3		
		生活産業情報	2～4		2		2		
		子どもの発達と保育	2～6	2		2	4		
		子ども文化	2～4		◎3	◎4	0～7		
		生活と福祉	2～4		2		2		
		ファッション造形基礎	2～6	2	3	○2	5～7		
		ファッション造形	4～10		◎3	◎4	0～7		
		フードデザイン	2～6	3	3	2	8		
		調理	4～18		◎3	◎4	0～7		
食品	2～4			2	2				
学校外学修	ボランティア活動			※1	※1	0～2	0～2		
教科単位数合計			28	29～30	29～30	86～88			
総合的な学習の時間単位数			1			1			
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3			
合計			30	30～31	30～31	90～92			

# 教育課程 (家政科)

平成31年度入学生

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	単位数合計		備考	
						科目	教科		
普通 (共通) 教科・科目	国語	国語総合	4	3	3		6	芸術の選択は、1年と3年は同じ科目とする。  「生活産業情報」で「社会と情報」2単位を代替する。 「課題研究」で「総合的な探究の時間」3単位を代替する。 専門科目の選択は、2年と3年は同じ科目とする。 学校外で実施するボランティア活動の35時間以上の活動を1単位として認定する。 ※希望履修	
		国語表現	3			2	2		
	地理歴史	世界史A	2		2		2		4
		日本史A	2			2	2		
	公民	現代社会	2	2			2		4
		政治・経済	2			2	2		
	数学	数学Ⅰ	3	3			3		7
		数学Ⅱ	4		2	2	4		
	理科	科学と人間生活	2	2			2		4~6
		化学基礎	2			○2	0~2		
		生物基礎	2		2		2		
	保健体育	体育	7~8	3	2	2	7		9
		保健	2	1	1		2		
	芸術	音楽Ⅰ	2	◇2			0~2		4
		音楽Ⅱ	2			◇2	0~2		
		美術Ⅰ	2	◇2			0~2		
		美術Ⅱ	2			◇2	0~2		
		書道Ⅰ	2	◇2			0~2		
		書道Ⅱ	2			◇2	0~2		
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3		7~9
コミュニケーション英語Ⅱ		4		2	2	4			
英語会話		2			○2	0~2			
家庭	家庭基礎	2	2			2	2		
情報	社会と情報	2				0			
専門教科・科目	家庭	生活産業基礎	2		2		2	35~37	
		課題研究	2~4			3	3		
		生活産業情報	2~4		2		2		
		子どもの発達と保育	2~6	2		2	4		
		子ども文化	2~4		◎3	◎4	0~7		
		生活と福祉	2~4		2		2		
		ファッション造形基礎	2~6	2	3	○2	5~7		
		ファッション造形	4~10		◎3	◎4	0~7		
		フードデザイン	2~6	3	3	2	8		
		調理	4~18		◎3	◎4	0~7		
食品	2~4				2	2			
学校外学修	ボランティア活動		※1	※1	※1	0~3	0~3		
教科単位数合計			28~29	29~30	29~30	86~89			
総合的な探究の時間単位数			1			1			
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3			
合計			30~31	30~31	30~31	90~93			



# 教育課程 (家政科)

令和2年度入学生

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	単位数合計		備考	
						科目	教科		
普通 (共通) 教科・科目	国語	国語総合	4	3	3		6	8	芸術の選択は、1年と3年は同じ科目とする。  「生活産業情報」で「社会と情報」2単位を代替する。 「課題研究」で「総合的な探究の時間」3単位を代替する。 専門科目の選択は、2年と3年は同じ科目とする。 学校外で実施するボランティア活動の35時間以上の活動を1単位として認定する。 ※希望履修
		国語表現	3			2	2		
	地理歴史	世界史A	2		2		2	4	
		日本史A	2			2	2		
	公民	現代社会	2	2			2	4	
		政治・経済	2			2	2		
	数学	数学Ⅰ	3	3			3	7	
		数学Ⅱ	4		2	2	4		
	理科	科学と人間生活	2	2			2	4~6	
		化学基礎	2			○2	0~2		
		生物基礎	2		2		2		
	保健体育	体育	7~8	3	2	2	7	9	
		保健	2	1	1		2		
	芸術	音楽Ⅰ	2	◇2			0~2	4	
		音楽Ⅱ	2			◇2	0~2		
		美術Ⅰ	2	◇2			0~2		
		美術Ⅱ	2			◇2	0~2		
		書道Ⅰ	2	◇2			0~2		
		書道Ⅱ	2			◇2	0~2		
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	7~9	
コミュニケーション英語Ⅱ		4		2	2	4			
英語会話		2			○2	0~2			
家庭	家庭基礎	2	2			2	2		
情報	社会と情報	2							
専門教科・科目	家庭	生活産業基礎	2		2		2	35~37	
		課題研究	2~4			3	3		
		生活産業情報	2~4		2		2		
		子どもの発達と保育	2~6	2		2	4		
		子ども文化	2~4		◎3	◎4	0~7		
		生活と福祉	2~4		2		2		
		ファッション造形基礎	2~6	2	3	○2	5~7		
		ファッション造形	4~10		◎3	◎4	0~7		
		フードデザイン	2~6	3	3	2	8		
		調理	4~18		◎3	◎4	0~7		
食品	2~4				2	2			
学校外学修	ボランティア活動		※1	※1	※1	0~3	0~3		
教科単位数合計			28~29	29~30	29~30	86~89			
総合的な探究の時間単位数			1			1			
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3			
合計			30~31	30~31	30~31	90~93			